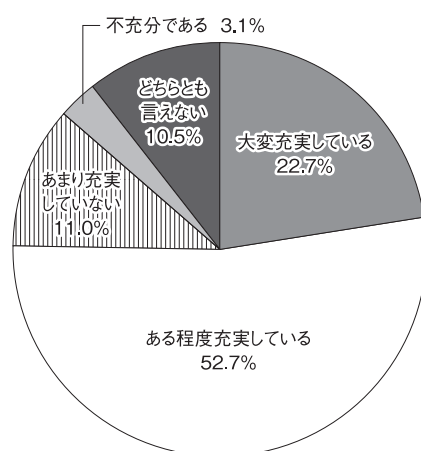


# 奨学金制度の充実度

**問26** 本学の奨学金制度は充実していると思いますか？



【基数：対象者全員】

## 奨学金制度については7割以上が『充実している』と回答

大学院生における奨学金制度の充実度を調査したところ、「ある程度充実している」と回答した大学院生は52.7%となり、これだけで過半数を超えている。そして「大変充実している」と回答した大学院生22.7%と合わせると75.4%という高い割合となっている。

大学院生の奨学金の利用状況は79.9%（関西大学奨学金の手引き～2012年度奨学金採用・利用状況～から）ということになっており、充実度合と利用状況はよく似た割合となっている。このような観点から、奨学金を必要とする大学院生はおおむね奨学金を受給しており、それに比例して充実度合についても「満足している」とする傾向にあるものと思われる。

また、「あまり充実していない」と「不十分である」と回答した大学院生をひとくくりで『充実していない』と考えているものと位置付け、その割合を問16（自身の経済状況）とのクロス集計でみると、経済的に「余裕がある」とした学生が0%、「やや余裕がある」9.1%、「あまり余裕がない」16.7%、「余裕がない」22.7%となっており、経済的に余裕がなければ、不十分と感じている傾向がある。これは同レベルの奨学金を受給していても経済的に余裕がなければ、不十分と感じるという実情かもしれない。学部生も同様の傾向があるが、大学院生のほうが顕著にその傾向が現れていると言える（学部生の問28を参照）。これは学部生よりも大学院生の方が経済的な面で自立している学生が多いため、より切実に充実度に反映したと言えるのかもしれない。

とはいえ、全体的に眺めれば、大学院生の奨学金制度の充実度は高いと言えるだろう。